



1986-5  
No. 212

【表紙】

「坑夫」

(荻原守衛作)

解説は30ページ

題字デザイン・桑山弥三郎

カット・林美紀子

もくじ

特集：改定現代仮名遣い

仮名遣いについて	林 大	4
ドラマと仮名遣い	寺島アキ子	8
ファクシミリ・ゼロックス・ワープロ	西村恕彦	10
改定現代仮名遣い		
—第16期国語審議会答申—		15

報 告

ハンゲルの国に旅して	野村雅昭	16
------------	------	----

随 想

京都国立近代美術館時代の思い出	河北倫明	18
-----------------	------	----

名勝紹介シリーズ②

室町時代の庭園	—金閣と銀閣—	20
---------	---------	----

新任のごあいさつ

文化財保護部文化財鑑査官	田邊三郎助	22
文化財保護部伝統文化課長	草場宗春	22
文化部宗務課長	長谷川正明	22
文化財保護部企画官	飛田真澄	22
奈良国立文化財研究所長	鈴木嘉吉	23

静岡県立美術館オープン!	23
--------------	----

文化庁ニュース

- ・昭和61年春の褒章受章者決まる……………24
- ・昭和61年春の勲章受章者決まる……………24
- ・日本芸術院賞受賞者決まる……………25
- ・重要無形文化財の指定等……………26
- ・重要文化財(建造物)の新指定  
—文化財保護審議会の答申— ……29

---

- ・文化庁行事報告及び予定……………30
- ・国立劇場ニュース……………31

は昔、筆者が機械翻訳システムの研究をしていたときには、連文節変換、文頭からの最長一致による単語の識別・切出しという手法は、論文の主題になるほど新鮮な技術だった。今では、これができないワープロは商品価値がないほど陳腐化した技術になっている。

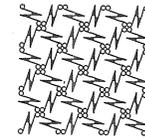
最長一致によって識別された仮名の列が、ワンタッチで漢字に変換される。以前には、書けない漢字は書かなかった。自分の書けない漢語は使わない規制が働いた。今は、書けない漢字、書けない漢語がそのまま文章中に入ってくる。ワープロで打った文章は、やたらに漢字が出てくる。文章中の漢字の使用率が明らかに高くなる。今の若い人たちの国語の力が低下しているなどと心配することはない。ひところよりもずっと多くの漢字が使われ始めた。

ただし、必ずしもまともな漢字ばかりではない。逆(とて)も、迄(まで)、乍(なが)、尚(なお)などと出てくると、このワープロの設計者が一体どんな勉強をしているのかしらと思ふ。常用漢字、公用文の文体で頑張っている者としては困るのである。もともと、講義(義)とか完璧(壁)とか組み込まれているワープロもあるそうだから、まだしもまともというべきか。

委員会審議は、ワープロとゼロックスによって大幅(巾)ではない)に変わった。提出された初稿をみんな読んで読み、みんなであちこち手を入れる。その結果を綺麗に打ち直して再稿とする。またみんなの意見で練り直す。第三稿ができる。これを繰り返して委員会としての最終案がまとなり、合意される。

大勢の協力によって欠点を取り除き、さぞや立派な名文が完成するかというと、さにあらず。格調もなく論理もない迷文になることがままある。直せば直すほど悪くなり、收拾がつかなくなる。ワープロとゼロックスのおかげである。なまじ綺麗に印字され、修正箇所が見えないばかりに、そのまま見過ごされ

# ファクシミリ・ゼロックス・ワープロ



西村 恕彦

じゃ、あとで文献を送りますという言葉が、ファクシミリを意味するようになった。すこし前までは企業の特別な部門にあるものという感じだった。それが一般の部署で広く用いられるようになり、さらに、われわれが日常接する研究者や大学人たちが、手軽に資料の交換をファクシミリで行うようになった。何といっても速い。郵便とは比べものにならない。封筒に入れて宛名書きをする手間もない。もともと手間は掛からないと思っているのは本人たちだけで、受信側には事務員がいて、略して書かれてよく分からない宛て先を判読し、仕分けし、配達しているのである。

ゼロックスが会議や事務の進め方を変えてしまっただけから、これこれ十年になるだろうか。原案を書き下して、さっと複写し

会議の席上で全員に配る。ゼロックスが普及する以前に、どういふ会議の仕方をしてきたのか、今となってはもう思い出すことも想像することもできにくくなっている。驚くほどの変化なのである。

会議の席で回覧というのもあった。口頭で読み上げて、聴いて確認というのもあった。いまでもお役人が「何々する者(しや)は」などと発言してひんしゆくをかうのは、その名残である。本当に配らなければならぬ文書は、例のガリ版にした。事前の手間と時間は別にしても、ガリ版刷りがかすれたりつぶれたりして読みにくかったこと、それ以上にあの誤字には泣かされた。長い期間を掛けて原案を練り、審議して、ようやく最終答申をお役所に出した。受け取った側では折角の労作をガリ版のひどい文書にし、減茶苦茶のまま日本工業規格にしてしまふ珍事があった。

ゼロックスは、研究資料や文献の扱いも変えた。図書館で探してあてた論文を、とりあえず複写して持ち帰り、家でゆっくりと読む。ゼロックス以前の文献調査はどんなものであったか。マイクロフィルムを印刷紙に焼いたり、反転複写をしたり、透明陽画を作って青焼きにしたりしていたことを、かろうじて思い出す。

※

ゼロックスとファクシミリは、徐々に普及し、じわじわと事務手続きを変えていった。ワープロの普及は雪崩れのようなと言えはよいだろうか。最初のワープロは、ほんの七年前に七百万円で発売されて、その価格であってさえも大きな注目を集めた。この機械によってワープロの需要が見いだされ、ワープロの市場が形成されたということは、現在の価格と競争からみれば、ほとんど信じがたい気持がする。

ワープロに組み込まれている機能・技術も著しく進んだ。今

てしまふ。

もう一つ厄介なことに、大抵の人は自分が日本語の専門家だ、日本語を熟知していると思ひ込んでいる。一家言さえもつ。絵とか音楽とか野球とかに関しても、プロの権威を無条件の前提とし、その希少価値にうやうやしく敬意を払いながら、日本語についてはそこらじゅうに専門家がいます。

文章表現にはリズムがある。人間の側には微妙なリズムの好し悪しを嗅ぎ分けるセンスがある。そのセンスが、一つの単語の選択をも左右する。大勢で寄ってたかつたからって、よくなるわけでもない。

ぼくは委員会の審議というものが好きじゃない。ワープロができてから、ますますきらいになった。もちろん、言葉は進化し、変容してゆくものである。規範的な言語観で律しきれぬものではないことは承知である。それにしても、「意外」とか「つなげる」とかいう言葉をぼくは受け入れようとは思わない。美意識の感覚に合わない。お堅い委員会でこんなことをいうと笑われるけれど。

\*

キャンソンのゼロックスと口が滑ったことがある。他社の静電複写機をゼロックスと言っては、電子オルガンをエレクトーンと呼ぶのと同じで、笑われてもしょうがない。しかし会議の進め方を変えたのは、一商品であるゼロックスだった。

もう一つ、初めに書いたファクシミリをファックスと略すのも、外国では要注意である。日本人が発音すると四文字語になる。

西村恕彦(にしむら・ひろひこ)  
日本アイビーエム株式会社、通商産業省工業技術院電子技術  
総合研究所を経て、東京農工大学工学部数理情報工学科教授。

編輯後記

○先月号でお知らせしましたように、三月六日に開かれた国語審議会において、昭和五十七年三月以来検討が行われてきた「改定現代仮名遣い」が答申されました。林大先生の巻頭論文にありますが、今回の改定の趣旨は「昭和二十一年」に制定された「現代かなづかい」の主旨である表音主義を受け、それを根拠にして整理を加え、多少複雑な姿のあつたものゝ簡素群を、比較的簡単な組織にまとめたものであり、かつ「表音原理」に対して慣習尊重の原理が共存することを明白にした、ものといえます。今回の答申により、昭和四十一年六月に文部大臣から国語審議会に対しなされた諮問事項(1、当用漢字について、2、送りかなづかいについて、3、現代かなづかいについて)への対応は一応終了こととなります。

○五月四日から六日にかけて開催された東京サミットも終り、霞ヶ関界隈もようやく平静な状況に戻りました。円高対策をはじめとして、今後我が国が解決しなければならない課題もいくつか議されたようですが、とにかく無事終ったことは何よりでした。

(S)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 ぎょうせい 営業課  
TEL(03)5318-1124(代表)

「文化庁月報」五月号

(通巻第222号)

昭和61年5月25日印刷・発行

編集文化庁

〒100東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

発行所 株式会社 ぎょうせい

本社 千代田区中央区銀座7丁目4番12号

営業所 千代田区新富町52番地

電話 (03)5318-1124(代表)

最寄口座 東京 九一六一番

印刷所 協行政学会印刷所

年間購読料 二、一六〇円(送料共)  
定価 一、八〇円(送料四五円)